国立大学附属幼稚園からの提案 18

幼児期に「遊ぶ」を考える

目次

発刊にあたって/4つの枠組みについて……1

コラム
新しい時代のまなざしから、幼児教育の基本を見つめ直す……2

保育の質の向上①
保育のあり方から「遊ぶ」を考える
遊びこむ子どもを育む　山形大学附属幼稚園……3
「あれ?」「そうだ!やってみよう」学びがつながる園生活
愛知教育大学附属幼稚園……4

保育の質の向上②
保育の基盤作りから「遊ぶ」を考える
持続可能な社会の担い手を育む環境とその援助
宮城教育大学附属幼稚園……5
持続可能な社会の担い手を育む教育課程の開発
奈良教育大学附属幼稚園……6

組織や運営上の課題　**社会に開かれた取組から「遊ぶ」を考える**
子育て支援の充実に向けた取組～未就園児対象事業を中心に～
鳥取大学附属幼稚園……7
幼児の「遊ぶ」を支える子育て支援(保育参加の取組から)
群馬大学共同教育学部附属幼稚園……8

今日的な課題
国の施策や現代的課題への取組から「遊ぶ」を考える
対話でつながる架け橋へ
大分大学教育学部附属幼稚園……9
幼小接続カリキュラムとの関連から幼児教育における「遊ぶ」を考える
山梨大学教育学部附属幼稚園……10

令和6年度 全国国立大学附属幼稚園研究テーマ一覧……11

令和6年3月
全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会

発刊にあたって

現在、子どもたちへたくさんの温かい眼差しが注がれています。そして、幼児教育が生涯にわたる教育の重要な基礎であることへの異議を唱える人はいない時代となっているのではないでしょうか。他方で社会は、目まぐるしく変化しています。経験したことのない豪雨や酷暑といった自然災害に見舞われ、次々と国際的な事件がグローバル社会に影響を与えています。こういう時代だからこそ、現代の問題に向き合いつつ、予測できない未来を見据えて、幼児教育で何ができるのか、何が必要なのか、私たちは真摯に議論していきたいと思います。

令和５年度から令和７年度の全国国立大学附属幼稚園連盟の研究主題は、「幼児期に「遊ぶ」を考える」です。「遊ぶ」という出来事は、私たちのすぐ目の前で生じる出来事です。この「遊ぶ」をキーワードに、「保育のあり方」から、「基盤づくり」、さらに、「社会に開かれた取り組み」、「国の施策」、「現代的課題への取り組み」へと、目の前の出来事から地球規模の課題まで、いわばミクロからマクロまで射程に入れて、検討できればと考えました。

本年度はこの研究の初年度です。このリーフレットでは、４つのサブテーマを立てて、成果をまとめました。これからさらに研究成果が発表されていきますが、そのスタートがこうしてまとめられたことに、ご協力してくださった各園の皆さまに深く感謝申し上げます。

全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会
（お茶の水女子大学附属幼稚園　園長）
部会長　小玉 亮子

４つの枠組みについて

保育の質の向上①

保育のあり方から「遊ぶ」を考える

行事とのつながりの中で子どもが遊びこむ姿や遊びの中で考える過程を通して、保育のあり方に視点を置き「遊ぶ」を考えています。

P3 ～ P4 へどうぞ

保育の質の向上②

保育の基盤作りから「遊ぶ」を考える

「持続可能な社会の担い手」を育むための環境や教育課程といった保育の基盤作りに視点を置き「遊ぶ」を考えています。

P5 ～ P6 へどうぞ

組織や運営上の課題

社会に開かれた取組から「遊ぶ」を考える

未就園児対象のサークル活動や保護者が保育者になる「保育参加」など、社会に開かれた取組に視点を置き「遊ぶ」を考えています。

P7 ～ P8 へどうぞ

今日的な課題

国の施策や現代的課題への取組から「遊ぶ」を考える

「対話」を通して様々な人とつながることや幼小接続カリキュラムとの関連など、国の施策や現代的課題への取組の視点から「遊ぶ」を考えています。

P9 ～ P10 へどうぞ

コラム

新しい時代のまなざしから、幼児教育の基本を見つめ直す

文部科学省初等中等教育局幼児教育課　幼児教育調査官　**横山 真貴子**

今、子供に関わる施策が大きく動いています。令和４年６月、心身の発達の過程にあるすべてのこどもの人権と権利を保障する「こども基本法」が成立しました。令和５年４月には、こども家庭庁が発足し、「こどもまんなか社会」の実現のため、こどもと家庭の福祉の増進・保健の向上等の支援、こどもの権利利益の養護に取り組んでいます。子供の教育については、文部科学省がこども家庭庁と密接に連携を図りつつ、すべての子供の教育の充実を目指しています。

令和５年６月には、新たな「教育振興基本計画」が閣議決定されました。本計画では、将来の予測が困難な時代の教育の羅針盤として、２つのコンセプトが掲げられています。「2040 年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」です。「ウェルビーイング」とは、「身体的･精神的･社会的に良い状態にあること」であり、「短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む」概念です。また「個人のみならず、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的に良い状態であることを含む包括的な概念」でもあります。

時代が動く時、新たな言葉が生まれます。言葉が新たな意味を持つようになります。時代を切り取る言葉は、新しい時代を拓きます。しかし、言葉は記号です。何かを表すものです。教育の言葉には、それが表す実践の具体があります。その言葉がどのような実践につながるのか、実践を振り返り考えてみると、具体的な実践の内容はこれまで大切に取り組んできたこと、培ってきたものと重なるかもしれません。重要なことは、時代の流れの中にあっても容易には変わるものではないでしょう。

例えば「こどもまんなか」について考えてみましょう。「こども基本法」では「こどもの年齢及び発達の程度に応じ、その意見を尊重し、その最善の利益を優先して考慮することを基本」とするとしています。これはまさに、幼児期の特性を踏まえた「環境を通した教育」、「幼児期にふさわしい生活の展開」、「遊びを通しての総合的な指導」、「一人一人の特性に応じた指導」といった幼児教育の基本に通じるものではないでしょうか。「こどもまんなか」という新たな言葉の切り口から、子供の権利を保障するあり方の観点に立ち、幼児教育の基本を捉え直す。「子どもの権利条約」では「命を守られ成長できること」、「子どもにとって最もよいこと」、「意見を表明し参加できること」、「差別のないこと」を４つの原則としています。まず安全で安心できる環境がある。その中で今の幸せを感じる。すると子供はいろいろな遊びに飛び出していくようになる。不安や困難があればいつでもそこに戻ることができ、元気を取り戻したら再び挑戦に向かう。子供が１人の主体として自分を表現し、自分が不当に不利に陥ることなく、他の人と共に生活を営むことができる。今の幸せと同時に未来に向かい成長していく環境、そしてそれを支える保育者がいる。そうした園生活のなかに学びが芽生える。

現行の幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領も、改訂（定）から６年が経過しました。各地域、各園で、様々な取組や実践が積み重ねられてきています。幼児教育の基本を大切にしながら、新たな時代の視点から研究を蓄積してきた附属幼稚園のみなさんだからこそ、新しい時代のまなざしから幼児教育の基本を見つめ直し、次代の幼児教育につなぐ質の高い実践を生み出していくことが可能になると、心より期待しています。

遊びこむ子どもを育む

「遊びこむ子ども」の姿について，本園では「遊びの状況を更新しながら遊びを自ら生成し，遊びを展開している姿」ととらえている。遊びこむ子どもの姿を支える保育者の見取りと援助の精度をいかにして向上させるか，改めて検討してきた。また，本園では遊びを中心とした保育を行っているが，教育活動の中には学年の活動や行事なども位置付けられている。「遊ぶ」ということについていろいろな角度からとらえ，遊びこむ子どもの姿に至るプロセスでの保育者の見取りと援助について再考した。

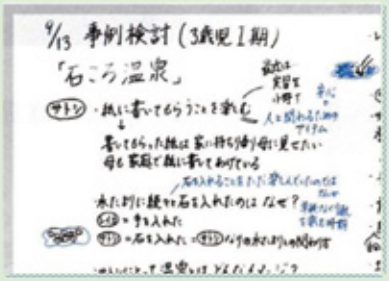
研究の概要

保育記録

写真を印刷し，メモ感覚で書いている。
- 遊びの事実
- 経験している内容
- 子どもの育ち
- 保育者の見取りや願い，援助など

事例検討

それぞれ課題と感じていることや考えてみたいこと（各保育者のテーマ）を基に，エピソード事例を集めた。そして，遊びこむ子どもの姿を支える見取りと援助について検討した。



実際の事例

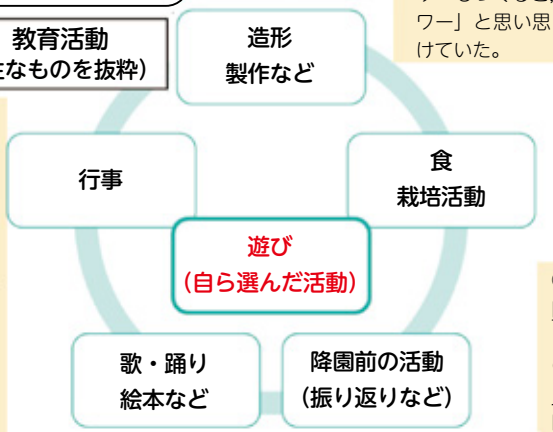
5歳児 1 期(4～6 月)「線路は続くよどこまでも」

遊びでは，子どもの思いが出発点となり，主体的な遊びとなっていく。しかし，それが行事への取組になった途端，保育者の意図が強くなってしまいがちである。子どもの今の実態を適切に見取り，遊びと行事，活動などを分けずに，本当に子どもたちがやりたいことを実現できるような保育のあり方とはどのようなものか，保育者は考えていた。

〈テーマ〉
遊びを通した保育（行事や活動などの総合的な指導）のあり方とは，どのようなものか

①～③：遊びのプロセス
〰：保育者の見取り　＿：援助

②この後，遊戯室から線路をつなげて遊ぶ子どもの姿が見られた。「この線路はどこにつながっていくのかな？」と問い掛けると，「山！」「世界一長い線路になるといいな」と，話が尽きない子どもたち。そのイメージを具現化しようと，線路をつなげていく造形活動に取り組んだ。山やタワーもつくると，「ふぞくようちえん山」「こっちは東京タワー」と思い思いに自分たちがつくったものに名前を付けていた。



①入園児となかよくなろうと（「なかよくなる会」），話し合いを始めた。すると，「秘密の会を開こう」「『つばさ』に乗りたい」とつぶやいた。電車ごっこが大好きな子どもたちは，線路をつくったり，電車となる場を構成したりして遊んでいたのである。この時期の実態を考えると，子どもたち同士が触れ合ったり動いたりして遊ぶ時間になればと保育者は考えた。そこで，子どもたちのやりたいこととすり合わせをしながら，遊戯室の床にビニールテープで線路をつくった。そして，車掌になった年長児につながって，みんなで電車ごっこをすることにした。

③数日後，『おばけ』に関する絵本を読み聞かせすると，「線路の続きにおばけやしきがあるかも」と，今度はおばけやしきの遊び。線路のイメージとおばけのイメージが行ったり来たりしながら，遊びが展開されていった。

〈考察〉

遊びの世界観をそのまま行事にもちこむことで，普段の遊びのような生き生きとした子どもの姿が見られた。また，今の子どもたちの実態を適切に見取り，行事や活動のねらいに立ち戻りながら，遊びを通した保育活動全体を見渡す視点が必要であるということが分かった。ねらいを軸にした子どもの経験の連続性を大事にしていきたい。

幼稚園教育要領には，「行事の指導に当たっては，幼稚園生活の自然の流れの中で生活に変化や潤いを与え，幼児が主体的に楽しく活動できるようにする」とある。「遊びこむ子どもを育む」をテーマに研究を進めてきたが，当然のことながら子どもたちの思考は連続していて，遊びから刺激を受けて行事でもやってみたり，行事や活動で取り組んだことを遊びで再現したりして楽しんでいる。保育活動全体で保育者が子どもの姿を適切に見取り，援助することで，遊びこむ子どもを育むことができるのだろう。事例検討を通して，自分が無意識に行っていた見取りや援助を改めて問い直し，言語化していくことで見取りと援助の精度を向上させることができた。

山形大学附属幼稚園　〒990-0023　山形県山形市松波 2-7-1
電話：023-641-4446　FAX：023-633-4747　E メール：fuyo@fuyo.yamagata-u.ac.jp

「あれ?」「そうだ!やってみよう」学びがつながる園生活

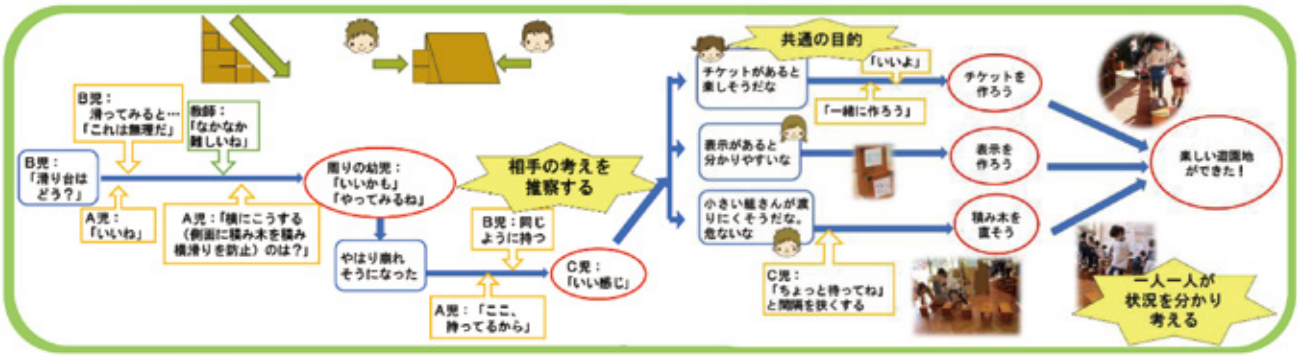
思考力の芽生えに視点を当て，幼児が自分なりに感じ考え思い巡らせているプロセスを『考える過程』として考察する。また，育ちによる違いを捉え小学校以降の教育との関連性についても考える。

「考える過程」を可視化する

3 歳児：直感的に行動や思考を繰り返す中で考える

4 歳児：知っていることや経験を基にしつつ，違う考えや新しい考えなどに触れ取り入れていく

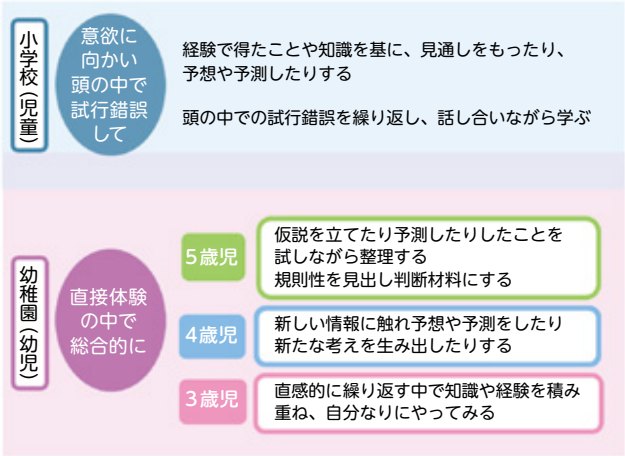
5 歳児：目的に向かって仮説や予想をもち，試しながら整理して規則性を見出し知識として蓄積する
友達の考えを受け入れつつ違う方法を考えたり，より良い方法を探して繰り返し考えたりする



「考える過程」を可視化することで，発達段階ごとの特徴や思考の深まりを見出すことができ，思考を繰り返すことこそが学びであると分かった。また，それぞれの育ちに合わせたこれまでの経験の積み重ねや教師，友達との関わりが，幼児の「考える過程」に大きく影響していることも分かった。

小学校とのつながりを考える

幼稚園の事例・小学校の授業の様子を共に資質・能力の三つの柱の視点で考察すると，自分のもつ知識を生かし試行錯誤する，予想する，見通しをもつことは共通であった。しかし，幼児は夢中になって遊ぶ中で総合的に学んでおり，児童は直接体験の中だけでなく次第にそれぞれの学びたいことに向かって，頭の中で試行錯誤しながら学んでいくという育ちの違いが分かった。



愛知教育大学附属幼稚園　〒461-0047　愛知県名古屋市東区大幸南 1 丁目 126 番
電話：052-722-4610　FAX：052-722-3743　E メール：www-k-kinder@m.auecc.aichi-edu.ac.jp

持続可能な社会の担い手を育む環境とその援助

幼稚園教育要領の前文には，「あらゆる他者を価値のある存在として尊重し，多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え，豊かな人生を切り拓き，持続可能な社会の創り手となることができるようにするための基礎を培うことが求められる」と記されている。小学校以降の教育で，身近な問題を自分事として捉え，実感を伴った学習活動へつなげていくために，幼児期において，持続可能な社会の創り手の基盤となる態度や資質・能力を育成する必要があると考えた。

SDGs（持続可能な開発目標）の達成

↑

ESD の推進【小学校以降の教育】

↑

ESD（持続可能な社会の創り手を育む教育）の基盤となる態度や資質・能力の育成【幼児期の教育】

持続可能な社会づくりの構成概念（幼児期）

幼児の様子や体験を見取る指標として活用し，日々の保育に内包されている ESD の要素や内容を明らかにしてきた。

持続可能な社会づくりの構成概念
（持続可能な社会の担い手に必要な価値観の基盤となる体験）

※参考：広島大学附属幼稚園

実践事例 1「チョウの羽を作ろう」

「チョウになりたい。」という思いをもち，チョウの羽を制作した。図鑑を見ながら自分のイメージに近いものを探したり，色画用紙に羽を描いたり，自分の力で最後まで作り上げることができた。

出来上がった羽を身に付けて園庭に出て遊んだ。イメージの世界に浸りながらごっこ遊びを楽しんでいた。

実践事例 2「幼虫にえさをあげたい」

飼育している幼虫のえさがなくなっていることに気付いた。「どんなえさを食べるの？」「えさはどこにあるの？」と何度も友達に聞いていた。自分でえさを採ってあげたいという強い思いをもっていると感じた。

幼虫が葉を食べている様子を見たり，幼虫のためにえさを採ってあげたりする経験から，命のつながりを感じているようだった。

相互性・循環性

実践事例 3「カメラを作ろう」

空き箱などの素材を使ってカメラを作り，出来上がったカメラを使って友達を撮影するごっこ遊びを楽しんでいた。教師から，「バックに付けるひもがどこにあるか○○ちゃんに教えてくれない？」と頼まれたり，カメラを作っていた友達から，「箱ってどこにあるの？」と聞かれたりした時，物があるところまで一緒に行って優しく教えてあげていた。

ESD の視点で日々の保育を捉え直すことによって，持続可能な社会づくりの構成概念を含む体験がたくさん含まれていることが分かった。保育者が ESD への理解をさらに深め，ESD を意識して保育実践を積み重ねることが持続可能な社会の担い手を育むことにつながっていくと考える。

宮城教育大学附属幼稚園　〒 980-0011　宮城県仙台市青葉区上杉 6 丁目 4-1
電話：022-234-0305　FAX：022-274-1605　E メール：https://www.fu-youchi.miyakyo-u.ac.jp

持続可能な社会の担い手を育む教育課程の開発

現代の社会課題
- グローバル化や情報化，少子高齢化などの社会の急激な変化
- 地球環境問題，人口の問題，貧困など

……つまり

将来の変化を容易に予測できない社会 → 目の前の子どもたちに必要な教育とは？ → 持続可能な社会の担い手を育むための教育が求められる →

「共に創る保育ー持続可能な社会の担い手を育む教育課程の開発ー」

○ ESD を基盤とした教育課程を開発する

［ESD（Education for Sustainable Development）とは，持続可能な社会を実現していくことを目指して行う教育活動］

○ ESD と幼児教育の親和性
- 人間性を育てる
- 様々な問題を，自らの問題として主体的に捉える
- 問題の解決につながる新たな価値観や行動の変容をもたらす

ESD の視点を取り入れ，これまでの研究（自尊感・からだ力・思考力）を土台としてこれまでの教育目標・教育課程の見直しを行う。 目指す人間像・目指す子ども像を策定し，それをもとに，日々保育を行う。

目指す子ども像

創造する
目的に向かって自分なりの考え方や方法を生み出す子ども

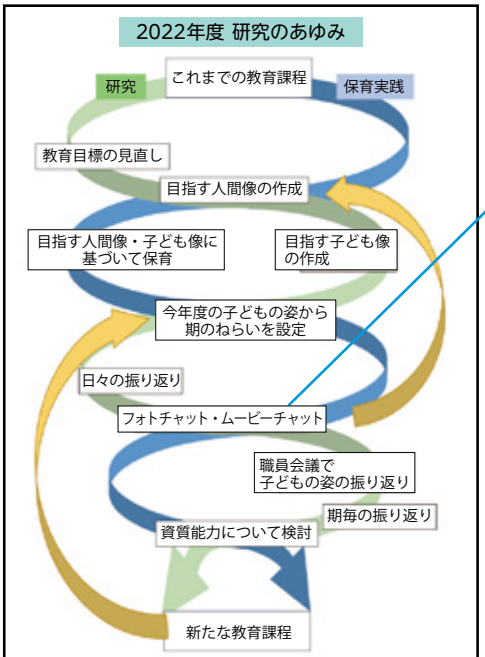
自分の思いをもって様々な物事にかかわり試行錯誤を繰り返しながら探究する力や，遊びや生活をよりよくするために予測したり期待したり確かめたりする力をもつ子ども

人とともに
ありのままを分かり合い，活かし合い，分かち合う子ども

自分の思いを相手に分かるように伝え，相手の思いを分かろうとする力をもち，互いのありのままを認め，相手を信頼し尊重しながら，協力して遊びや生活を進めようとする子ども

地球の中で
身の回りの環境に親しんで愛着をもち，自ら積極的にかかわり，大切にしようとする子ども

身の回りのものや出来事に親しみや愛着の気持ちをもちながら，自分ごととして捉え，積極的にかかわり，大切にしようとする子ども



これまでの教育課程を見直すにあたり，短期的・長期的に振り返りを行う。研究と保育実践を往還させながら教育課程開発を進めている。

【ムービーチャットによる実践事例検討】

保育中に撮影した動画や写真を使って，視点を決めて保育者同士が語り合う本園が開発した研修スタイル。今年度の視点は目指す子ども像「創造する」「人とともに」「地球の中で」の３つ

３歳児 １月（Ｖ期）「砂場で，線路をつくって電車を走らせよう」

動画からとらえた子どもの姿は・・・

【創造する】
- ○Ａ児は電車が線路を走ることをイメージしながら，砂場の中に電車を走らせている。
- ○Ａ児が橋をつくることをヒラメク
- ○Ｃ児はＡ児が砂を少し掘ったことと，樋を持ってきたことから，海をつくることをヒラメキ，スコップで掘る。

【人とともに】
- ○Ａ児が走らせた電車の跡がつき，それが線路のようになると，そこをＢ児Ｃ児も電車を走らせる。
- ○停車しているＡ児の電車の後ろに，Ｂ児Ｃ児の電車が並び一列になる。
- ○会話はないが，互いの様子を見たり，感じたりしながら遊んでいる
- ○Ｂ児はＡ児の様子をじっと見つめている

【地球の中で】
- ○Ａ児が樋を取りに行き２本持って戻る
- ○１本目につくった橋と別の場所にもう一つ橋をつくることを思いつく。しかし樋がないため，年中組の砂場に借りに行く。

考察

【創造する】
自分のしたいこと，考えたことが実現できることで，自分で創造する楽しさを感じられるようになってくるのではないか

【人とともに】
自分のしたいことを存分にしながら，友達とのかかわりをもつことの楽しさや面白さを感じることが，やがては友達と目的を共有したり，協力したりすることにつながっていくのではないか

【地球の中で】
自分で動いたり，環境にかかわっていくことで，それぞれの道具の特徴や使い方が少しずつわかってきた。その日々の積み重ねてきた経験があるからこそ，自分が必要だと考えたときに使いこなすことができるのではないか

➡ ムービーチャットなど様々な振り返りを通して，目指す子ども像の内容や，それに基づいた保育のあり方を３つの視点で検証，評価し，それを教育課程に反映させている。

奈良教育大学附属幼稚園　〒 630-8301　奈良県奈良市高畑町 354
電話：0742-27-9286　FAX：0742-27-9287　E メール：kinder@nara-edu.ac.jp

子育て支援の充実に向けた取組～未就園児対象事業を中心に～

本園では，未就園児の保護者に対して，親子の触れ合いをねらいとした「親子ぴょんぴょんサークル」等を行っている。子育ての不安や悩み等を相談し，喜びを共有できる場や機会が少なくなっている現状だからこそ，地域貢献としての子育て支援事業が必要となってくる。「乳幼児期に適した保育環境の提供」，「子育てのヒントや情報の共有」，「保護者同士のつながりの場」という３つの観点を念頭に置いて子育て支援を行っている。

「親子ぴょんぴょんサークル」の実践

☆月１回 水曜日 午前中に実施☆

参加者のメリット

- 固定されたメンバーのサークルではないため，気軽に参加できる。
- お昼寝と重ならないので，時間的に参加しやすい。
- 在園児がいる時間帯（保育中）に行うことで，園の様子や遊びの様子を知ることができる。

親子ぴょんぴょんサークルの主な流れ

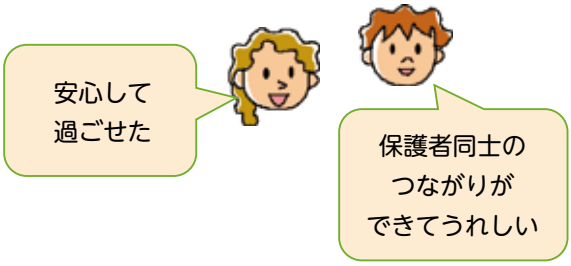
自由遊び
↓
片付け，水分補給等
↓
集い

親子で自由に遊ぶ時間には，製作活動・園庭遊び・砂場遊び等の環境を設定し，子どもの興味に合わせて選択して遊べるようにしている。また，必要に応じて柔軟に内容を検討し，実態に即した親子の触れ合いの場を提供することで，家庭では得がたい経験をできるようにしている。

製作活動の内容を決める際のポイント

安心して遊べる環境づくり
経験の幅を広げる活動

自由に遊ぶ時間を設けたことで，気軽に参加し，保護者同士でおしゃべりをする様子が見られ，子育てに関する情報交換等の場にもなっている。 また，回を重ねるごとに保育者との信頼関係ができ，子育ての相談をする方も増えてきた。これらのことが保護者の安心感につながると考えている。



まとめ

保護者の安心感が，子育て支援の一番の要である。保護者の安心感を高め，子育ての喜びや楽しみを感じられるような支援を行うことが，子どもたちの健やかな成長へつながっていく。今後も，子育ての様々なニーズをとらえ，地域の拠点として，社会に開かれた子育て支援に取り組んでいきたい。

鳥取大学附属幼稚園　〒680-0941　鳥取県鳥取市湖山町北２丁目465番地
電話：0857-28-0010　FAX：0857-31-3321　Eメール：fuyou@fuzoku.tottori-u.ac.jp

幼児の「遊ぶ」を支える子育て支援（保育参加の取組から）

本園では，「お母さん先生」「お父さん先生」として保護者が保育者となる「保育参加」を実施している。その取組から，幼児の「遊ぶ」を支える子育ての支援について考える。

幼児の様子や成長を目の前で感じてもらえるように

本園での保育参加の目的

園での指導をかかわりのヒントにしてもらえるように

本園の保育参加の歴史

＜平成 16 年度から実施＞

当時は，幼児の成長を感じてもらえるように，時期をずらして，年間に２～３回設定していた。

令和 4 年度の本園の保育参加の概要

- 6 月 14 日（火）～ 28 日（火）のうちの全 10 日間
- 希望する保護者がどこか 1 日参加・１日最大３名まで
- 前日に 30 分程度の打合せ（一日の流れや留意点など）を実施
- 当日参加の保護者と 10 分程度の振り返りを実施
- 保育参加体験後にアンケートを実施

前日の打合せで、参加する保護者に、特に伝えておいたこと

不必要な手伝いや遊び相手をするのではなく、幼児のしたいこと、言いたいことを大事にしてかかわってほしい

何に興味があるのかをよく見たり、同じことをして、大人も面白さを感じたりしてほしい

保育参加を体験した保護者の気付き

「気付かせる言葉を掛ける」という考え方が新鮮だった

言い方ややり方を変えると子どもは自分から動く

幼児期でも、個性を尊重するかかわりが大事なんだ

周囲の環境から、子どもたちはたくさん刺激を受けているんだ

やらせなかったり、教えていなかったりしていたのかも…

こんなふうに友達とかかわっていたなんて。子どもの話からだけでは誤解してしまう

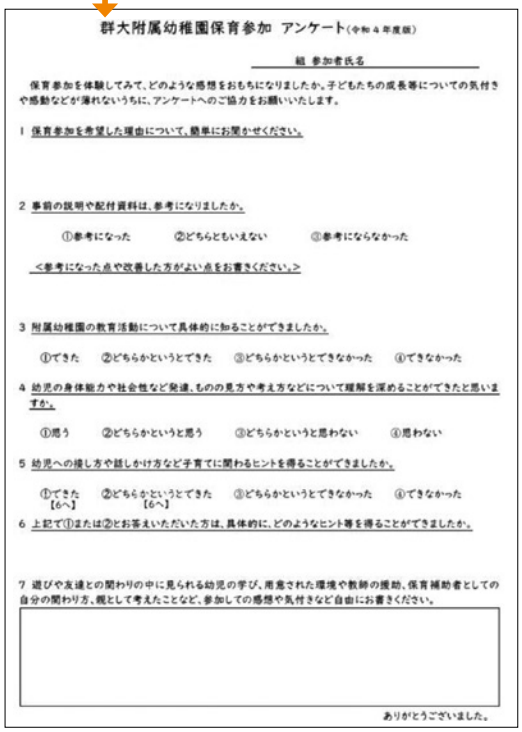
先回りではなく、じっくりと見守ることが大事だな

いざこざの中で子どもは、たくさん学んでいた

同じ年齢でも、様子は様々だ

子どもが自ら動くように促す、先生たちの姿を参考にしたい

子どもとたっぷりじっくりかかわると、子どもは満足し、安心して遊ぶことに集中できるんだ



群大附属幼稚園保育参加　アンケート（令和４年度版）

組　参加者氏名

保育参加を体験してみて、どのような感想をおもちになりましたか。子どもたちの成長等についての気付きや感動などが薄れないうちに、アンケートへのご協力をお願いいたします。

1　保育参加を希望した理由について、簡単にお聞かせください。

2　事前の説明や配付資料は、参考になりましたか。

①参考になった　②どちらともいえない　③参考にならなかった

＜参考になった点や改善した方がよい点をお書きください。＞

3　附属幼稚園の教育活動について具体的に知ることができましたか。

①できた　②どちらかというとできた　③どちらかというとできなかった　④できなかった

4　幼児の身体能力や社会性など発達、ものの見方や考え方などについて理解を深めることができたと思いますか。

①思う　②どちらかというと思う　③どちらかというと思わない　④思わない

5　幼児への接し方や話しかけ方など子育てに関わるヒントを得ることができましたか。

①できた【6へ】　②どちらかというとできた【6へ】　③どちらかというとできなかった　④できなかった

6　上記で①または②とお答えいただいた方は、具体的に、どのようなヒント等を得ることができましたか。

7　遊びや友達との関わりの中に見られる幼児の学び、用意された環境や教師の援助、保育補助者としての自分の関わり方、親として考えたことなど、参加しての感想や気付きなど自由にお書きください。

ありがとうございました。

保護者が，かかわり方が幼児の成長に大きな影響を与えることに気付いたり，どのようなかかわり方が大切であるのかを知ったり，夢中になって遊ぶ中で幼児がどのような学びを得ているのかを目の当たりにしたりする保育参加の取組は，子育てに悩む保護者を支援する方策として意義深いと考えている。幼児のこれからの発達を支える「遊ぶ」を家庭と連携して保障していくために……。

群馬大学共同教育学部附属幼稚園　〒 371-0032　群馬県前橋市若宮町 2-5-3
電話：027-231-3170　FAX：027-231-3163　E メール：kinder-edu@ml.gunma-u.ac.jp

対話でつながる架け橋へ

子どもたちにとっては「遊ぶ」こと自体が目的ではあるが，「遊ぶ」ことは幼児期特有の学習である。「遊ぶ」中で子どもたちは何を学んでいるのか，私たちはその姿をどのように支えていけるのかを探った。また子どもの姿をまんなかに，対話で様々な人たちとつながる架け橋にしようと考えた。

〇研究から「遊ぶ」を考える…身の回りに溢れている数量や図形＝『数の世界』の視点から

「遊ぶ」の中の『数の世界』

自分の思いを伝える
ための手段としての
『数の世界』

子どもにとって
魅力的な
『数の世界』

体験を重ねることで
学びが深まる
『数の世界』

他の遊びや生活に
つながる
『数の世界』

『数の世界』の関心・感覚の育ちを支える

３歳児「感じる」	４歳児「膨らむ」	５歳児「広がる」
◇十分に使える道具の量・調整できるような道具の種類 →繰り返し・道具を使って試す姿に ◆物の状態やしたいことを言葉にして伝える →実感を伴って感じられるように ◆試したり工夫したりしていることを認める →手ごたえが感じられるように	◇遊びのイメージに応じて用意する道具を変える →イメージを形にすることにつながる ◆個々のイメージの重なりを見取る →共通の目的へつながるための子どもの姿の見取りにつながる ◆問いかける・認めるなどする →考えていることや思っていることのイメージを引き出す，周りの子どもへの刺激となる	◇教師が穴を増やす →子どもの発想が生まれる ◆子どもの数量に関する言葉を分かりやすい言葉に言い換え，伝える機会をつくる →周りに伝わる ◆経験した遊びにつなげながらイメージする言葉を出し合う機会をつくる →様々な数量に関する言葉に気付き，感覚が豊かになることにつながる

子どもも大人も言葉を使っている →「対話」に注目

〇対話でつながる架け橋へ　一緒に「遊ぶ」を考える

〇幼児教育の専門性を活かした
見取り・保育の見える化

〇子どもの姿で語り合う
相手との対話のきっかけを

幼稚園から

子どもたちへ

友だちや自分との
対話のきっかけに
写真や動画を活用

子どもをまんなかに

小学校へ

子どもたちの交流をとおして
互見保育・授業の実施

保護者へ

子どもたちの様子を聞く・保育を経験してもらう

地域へ

HPで子どもの遊ぶ姿を発信・リカレント研修の受け入れ

幼児教育の専門性をもって見取った子どもの思いや考え，遊びの中の学びの要素など，子どもの姿や「遊ぶ」ことの解説者になって発信していくことで，対話のきっかけをつくり，子どもを取り巻く周囲の人たちとの架け橋にしたい。

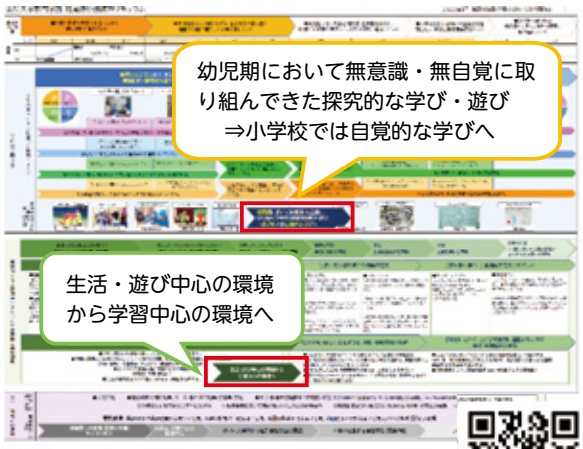
大分大学教育学部附属幼稚園　〒870-0819　大分県大分市王子新町１番１号
電話：097-544-4449　FAX：097-543-9514　Eメール：youtien@oita-u.ac.jp

幼小接続カリキュラムとの関連から幼児教育における「遊ぶ」を考える

幼稚園教育要領において「幼児の自発的な活動としての遊びは，心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習」といわれているが，架け橋特別委員会が述べるように「幼児期の遊びを通した学びの特性に関する社会や小学校等との認識の共有は未だ十分ではない」。そこで，本園における幼小接続カリキュラムに基づいて行われたエピソードから，幼児教育における「遊ぶ」について考えた。

幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会　令和５年２月 27 日（抜粋）
幼児期は遊びを通して小学校以降の学習の基盤となる芽生えを培う時期であり，小学校においてはその芽生えを更に伸ばしていくことが必要。
１．架け橋期の教育の充実 小学校においては，幼児教育施設で育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施。
２．幼児教育の特性に関する社会や小学校等との認識の共有 幼児期の遊びを通した学びの特性に関する社会や小学校等との認識の共有が未だ十分ではないため，（中略）共通認識を図る。

山梨大学教育学部附属幼小接続カリキュラム



右の QR コードからご覧になれます

＜子どもの姿から＞

遊びを通して培った力が生きてくる小学校生活に向けて―１日入学（２月）―　５歳児と１年生との交流

１年生と手をつなぎ学校探検

１年生が作った紙芝居での説明

幼児期に「遊び」を通して学んだこと
・紙芝居やペープサートを見たり作ったりしたこと
・相手のために考えることや工夫する力

１年生は「幼稚園のみんなが安心できるように」と考え，紙芝居などを作成

幼児期にしてきたことを小学校教員が聴き取り，小学校での活動に積極的に取り入れることで，遊びを通して培った力を発揮できる

＜教師の関わりから＞

遊びを通した学びの共通理解に向けて―小学校教員が５歳児を観察（３月）―

「５歳児は小さい子」だと思っている小学校教員と，「自分たちは大きい」と思っている５歳児や幼稚園教員との意識のズレ

幼児が個々に自分の興味や関心に沿って遊ぶことが重要であり，幼児が「やりたい」と思える遊びが保育の中核。幼児教育では，「してはいけないこと」ではなく，幼児の「したいこと」を大事にしている

幼児教育と小学校教育では，枠組みが異なることが前提としての相互理解が必要

幼児期の遊びを通した学びの姿を小学校教員と共有し，小学校において，幼児期の遊びを通した学びを発揮できる環境を整えることが大切である。

山梨大学教育学部附属幼稚園　〒 400-0005　山梨県甲府市北新１丁目 2-1
電話：055-220-8320　FAX：055-220-8783　E メール：kirinome@yamanashi.ac.jp

令和6年度　全国国立大学附属幼稚園研究テーマ一覧

令和6年2月現在

	園　名	令和6年度 研究テーマ	公開研究会等開催日
1	北海道教育大学 附属旭川幼稚園	質の高い保育の探求	9月7日(土)
2	北海道教育大学 附属函館幼稚園	未定	未定
3	弘前大学教育学部 附属幼稚園	遊びこむ子どもを育む保育 ～育ってほしい姿に向かって～	11月16日(土) 小・中・幼の公開合同研
4	岩手大学教育学部 附属幼稚園	心はずませ遊ぶ子どもを育む (仮)	学年別保育研究会 6月14日(金)・11月29日(金) 令和7年2月7日(金)
5	宮城教育大学 附属幼稚園	持続可能な社会の担い手を育む環境とその援助 ～子どもが夢中になって遊ぶ教育課程を目指して～	10月31日(木)
6	秋田大学教育文化 学部附属幼稚園	未定	6月27日(木) 11月28日(木)
7	山形大学 附属幼稚園	遊びがうまれる環境構成	6月6日(木)
8	福島大学 附属幼稚園	日々の保育を考える ―「やってみたい」のその先に―(2年次)	11月15日(金) 16日(土)
9	茨城大学教育学部 附属幼稚園	つながる保育 ～遊び、遊び込むから探究へ～	12月6日(金)
10	宇都宮大学共同 教育学部附属幼稚園	たっぷり遊ぶ　を支える ～こどもが心を動かすとき～	6月15日(土)
11	群馬大学共同教育 学部附属幼稚園	あきらめないでやり遂げる力を育む保育	11月9日(土)
12	埼玉大学教育学部 附属幼稚園	幼児教育への問いに実践から応えるⅡ ―「楽しむ」とは何でしょうか―	6月25日(火) 11月28日(木) 令和7年1月29日(水)
13	千葉大学教育学部 附属幼稚園	対話から環境を考える	公開研究会 7月13日(土) 令和7年2月15日(土) 保育を語る会 6月5日(水)・10月18日(金)
14	東京学芸大学附属 幼稚園小金井園舎	幼児教育を語る・伝える保育者 ―保育の可視化の工夫(「Pシート」の活用)―	研究協議会 6月14日(金) 学年別公開保育検討会 10月31日(木)・11月8日(金) ・11月15日(金)
	東京学芸大学附属 幼稚園竹早園舎	未来を切り拓く子どもの主体性が活きる学び(幼小中連携研究)	令和7年1月25日(土)
15	お茶の水女子大学 附属幼稚園	「つくる」がうまれる暮らし 2年次	令和7年2月7日(土)
16	山梨大学教育学部 附属幼稚園	しなやかに伸びていく子どもを育む保育(3年次)	公開保育 6月26日(水)・2月26日(水) 公開研究会12月7日(土)
17	新潟大学 附属幼稚園	自ら動き出す子どもの育成 ―心を動かし環境に働きかけて遊びこむ―	10月12日(土)
18	富山大学教育学部 附属幼稚園	主体的な活動を支える教師の役割(1年次)～子供の姿を捉える～	6月21日(金)
19	金沢大学人間社会学域 学校教育学類附属幼稚園	幼児の姿からつむぐ指導計画	6月8日(土)
20	福井大学教育学部 附属幼稚園	つながりが育む学びの深まり ―好きが広がり、世界をひらく―(3年次)	6月14日(金) 11月2日(土)
21	信州大学教育学部 附属幼稚園	「探究心の根」をのばす子どもたち	未定
22	上越教育大学 附属幼稚園	つながる保育～園と園のつながりをつくる(2年次)～	9月26日(木)
23	静岡大学教育学部 附属幼稚園	あそびについて語り合おう (3年次)	6月12日(水) 10月2日(水) 11月27日(水)
24	愛知教育大学 附属幼稚園	わくわくが生まれる環境　2年次	11月7日(木)
25	三重大学教育学部 附属幼稚園	「やってみたい」がつながる保育 ～遊びこむ姿をめざして～	11月9日(土)
26	滋賀大学教育学部 附属幼稚園	"いま"を生きる×"これから"を生き抜く力を育む保育(3年次)	未定
27	京都教育大学 附属幼稚園	就園前から架け橋期を見据えた教育課程のあり方について	令和7年1月25日(土)
28	大阪教育大学 附属幼稚園	自分のよさや可能性に気付く保育の在り方を探る～3年次～	令和7年1月25日(土)
29	兵庫教育大学 附属幼稚園	幼児期におけるSTEAM教育の探求(仮)	12月7日(土)
30	神戸大学 附属幼稚園	遊びの中の学びを見取る	11月30日(土)
31	奈良教育大学附属幼保 連携型認定こども園	共に創る保育 ―持続可能な社会の担い手を育む教育課程の開発―(3年次)	6月22日(土)
32	奈良女子大学 附属幼稚園	ともに世界に意味を創り出す教育をデザインする ―「記録」の意味を再構築する―	10月31日(木)
33	鳥取大学 附属幼稚園	未定	7月6日(土)
34	島根大学教育学部 附属幼稚園	遊び込む子どもを育てる ～探究を視点に未来創造科との接続を探る～(仮)	10月11日(金) ※附属義務教育学校と合同開催
35	岡山大学教育学部 附属幼稚園	共にくらしを創る ―幼児の「自己決定」を支える環境づくり(3年次)―	11月2日(土)
36	広島大学附属幼稚園	未定	10月31日(木)
37	広島大学附属 三原幼稚園	未定	11月30日(土)
38	山口大学教育学部 附属幼稚園	自ら学びをつなぐ子どもの育成 ～学びの過程に着目して～	11月22日(金)
39	鳴門教育大学 附属幼稚園	遊誘財研究をいかした保育者の専門性向上への取り組み ～子どもの主体的・創造的な生活を支える保育者の在り方～	11月9日(土)
40	香川大学教育学部 附属幼稚園	保育を楽しむ保育者を目指して ～資質・能力が育つ状況づくりを探る(仮称)～	令和7年1月31日(金)
	香川大学教育学部 附属幼稚園高松園舎	環境の在り方について考える	令和7年2月7日(金) 幼小交流活動
41	愛媛大学教育学部 附属幼稚園	個を生かした協働的な学びを求めて	令和7年2月7日(金)
42	高知大学教育学部 附属幼稚園	心・体が育つ保育をめざして(3年次) ～資質・能力を育む幼児の経験に着目して(仮)～	令和7年1月25日(土)
43	福岡教育大学 附属幼稚園	安心して自己を発揮する幼児を育む保育(2年次)	11月9日(土)
44	佐賀大学教育学部 附属幼稚園	保育の質を高める環境を探る	令和7年2月11日(火)
45	長崎大学教育学部 附属幼稚園	「したい　知りたい　やってみよう」を育む環境構成と教師の援助	未定
46	熊本大学教育学部 附属幼稚園	「やってみたい」のその先へ ～「学びを支えるポイント」(援助)の検証と教育課程の見直し	令和7年1月25日(土) 予定
47	大分大学教育学部 附属幼稚園	(仮)主体的に活動する子ども	6月8日(土)
48	宮崎大学教育学部 附属幼稚園	ポジティブな行動支援による保育の在り方(2年次)	令和7年1月31日(金)
49	鹿児島大学教育学部 附属幼稚園	多様な動きを経験しながら，夢中になって遊ぶ子どもを育む	11月15日(金)

発　行
全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会
事務局：お茶の水女子大学附属幼稚園

編　集
関東甲地区茨城大会
山梨大学教育学部附属幼稚園
〒400-0005 山梨県甲府市北新１丁目２－１
TEL：055-220-8320 FAX：055-220-8783
Eメール：kirinome@yamanashi.ac.jp